

1 大会招致に向けて

■ 1972年～現在～2030大会へ ……大会概要（案）3～4ページ

- ▶ 1972年大会は市民としての誇りを形成し、インフラ等の整備が推進されることにより、札幌が国内有数の都市に成長するきっかけとなった。

【現在の札幌】

- ▶ 人口減少・少子高齢化への対応、共生社会の実現、気候変動対策など、解決すべき課題が存在

解決に向けた取組をすすめるには、人々の力を結集し、思いを一つに束ねることが重要

- ▶ オリンピック・パラリンピックは、大会の開催を契機として人々の力を結集し、思いを一つに束ねる絶好の機会

- ▶ 大会の開催とそれに至るまでの一連の取組が、現在の札幌市がかかえる課題解決のきっかけ
- ▶ 大会後の2031年以降にあるべきまちのすがたを見据え、これから2030年までの取組を実行

100年後も輝き続ける持続可能なまちを構築するための礎に

【大会開催後の札幌の姿】

- ▶ 社会課題に迅速かつ柔軟な対応ができる先進的なまち
- ▶ 市民が愛着を持ち、住み続けたい、誰もが訪れたい、と思えるまち

■ 大会がもたらすまちの未来 ……大会概要（案）5～10ページ

- ▶ 持続可能なまちづくりを進める絶好の機会であるオリンピック・パラリンピックを最大限生かすため、目指すべき方向性（ビジョン）を構築
- ▶ 2019年に実施したワークショップで寄せられた市民のオリンピック・パラリンピックに対する意見や、喫緊の社会課題を踏まえ、4つの分野を設定し、目指すまちの姿（ターゲット）の構築と、大会によりもたらされるもの（レガシー）を明確化

大会ビジョン

札幌らしい持続可能なオリンピック・パラリンピック
～人と地球と未来にやさしい大会で新たなレガシーを～

SDGsの先の未来（50年後・100年後）

	ターゲット (大会において目指すまちの姿)	レガシー (大会によってもたらされるもの)
スポーツ・健康	スポーツによる健康で活力のある社会	健康寿命の延伸 等
経済・まちづくり	世界に躍進する魅力あふれるまちづくり	「世界に誇れるスノーリゾート・国際都市札幌」の認知 等
社会	全ての人にやさしい共生社会の実現	バリアフリーの推進 等
環境	次世代が豊かな自然を享受できるまち	再生可能エネルギーの利活用 等

市民の意見等を聞きながら強化する

2 大会に関連する経費の試算

- ◆ 大会運営費には原則、税金は投入しない計画とする
- ◆ 収入に見合った効率的な大会運営に努める
- ◆ 既存施設を最大限活用し、大会のためだけの新たな施設は設けない計画とする

■ 施設整備費（本設費） ……大会概要（案）27ページ

～大会後も継続して利用される施設、設備の改修・建替に要する費用

項目	億円	億円
施設整備費 総額	800	800～1,400
- うち札幌市実質負担額	450	400～600

- ▶ 大会の開催有無に関わらず、すでに使われている施設を今後も継続して利用していくことを前提に、大会を契機により長く活用することを踏まえた改修（バリアフリー改修等）を想定
- ▶ 大会後も施設所有者の財産として、多くの人々が利用するために必要な更新・改修のみを実施し、その費用は約800億円と試算
- ▶ 札幌市が所有する施設の更新・改修については札幌市が実施し、現行制度に基づいた国の交付金等を活用していくことも想定した場合、札幌市の実質負担額は約450億円と試算

【主な施設整備費】

- ・ 新月寒体育館等 …… 総額365億円・市負担額214億円
- ・ 大倉山ジャンプ競技場 …… 総額78億円・市負担額78億円
- ・ 選手村 …… 総額157億円・市負担額86億円

■ 大会運営費（組織委員会予算） ……大会概要（案）28ページ

～セキュリティや輸送、宿泊に要する費用や観客席の一時的な増設といった仮設費用

	〈更新後〉		〈更新前〉	
	項目	億円	項目	億円
収入	IOC負担金、TOPスポンサー収入	800		800
	国内スポンサー収入	800～1,000		1,100
	その他（チケット、ライセンス収入）	400		400
	収入 合計	2,000～2,200		2,300

- ▶ IOCの負担金やスポンサー収入、チケット売上収入などで構成され、原則として税金は投入されず、すべて民間資金による収入でまかなう計画
- ▶ 国内スポンサー収入は、過去の冬季大会の実績から800～1,000億円と試算

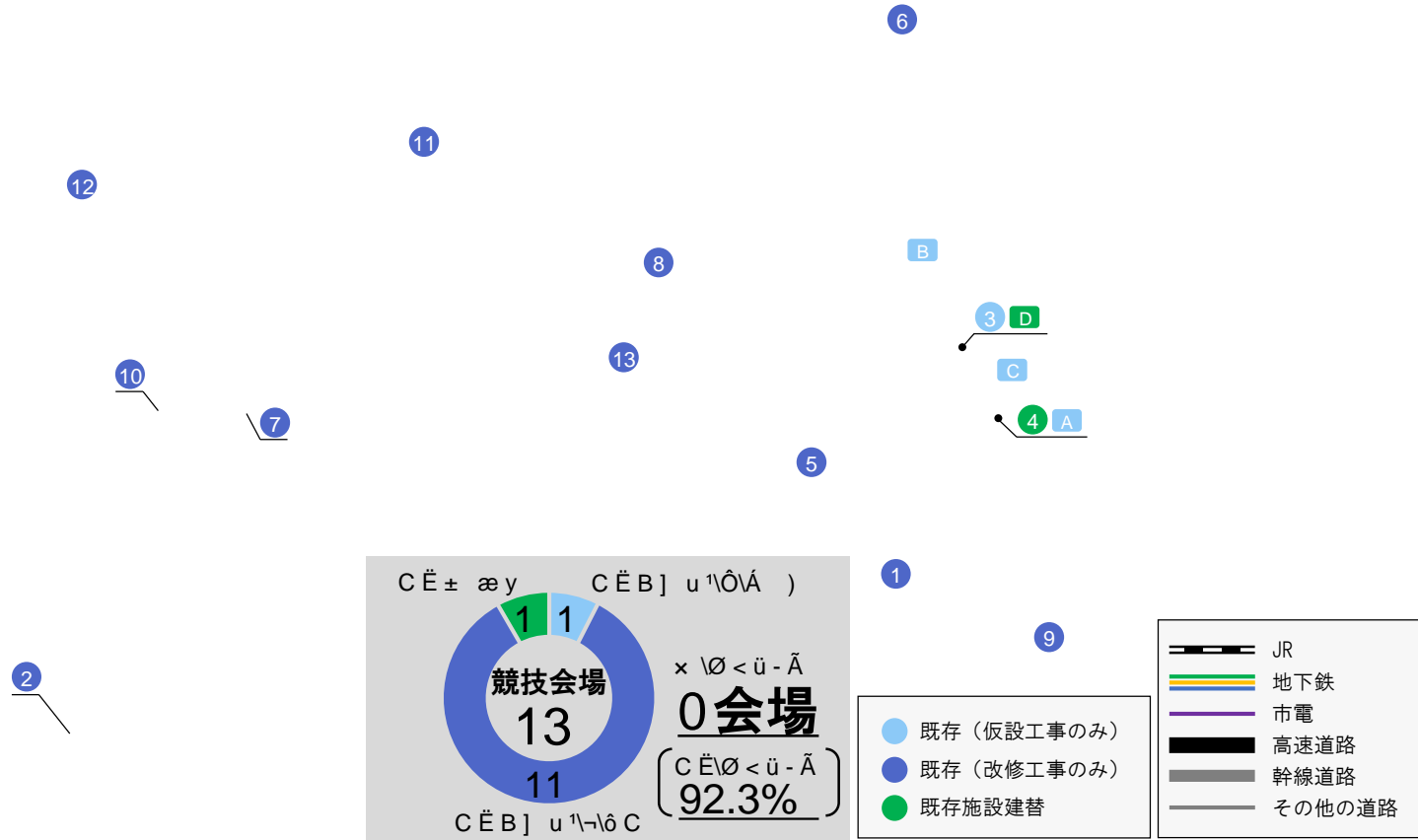
	〈更新後〉		〈更新前〉	
	項目	億円	項目	億円
支出	仮設費用（観客席の一時的な増設など）	600		600
	その他運営費	1,200～1,400		1,700
	予備費	200		0
	支出 合計	2,000～2,200		2,300

- ▶ 開閉会式等の式典関係の企画・運営費等の大会運営に係る費用を削減
- ▶ 更新前は見込んでいなかった予備費を計上し、リスクへの備えを強化

3 会場配置計画

■ 現時点の会場配置MAP

・・・大会概要（案）19～25ページ



<主な会場のレガシー計画について>

■ スキー・ジャンプ/スキー・ノルディック複合ジャンプ

【 検討状況 】

¼ 運営・レガシー・コストの観点から、大倉山ジャンプ競技場にノーマルヒルを併設し、ジャンプの会場を一本化することを計画している。

【 今後の進め方 】

¼ あわせて、宮の森ジャンプ競技場については後利用計画の検討を進めていく。

■ スキー・アルペンスキー

【 検討状況 】

¼ 高速系種目の高低差要件を満たすために、アルペン会場はニセコで計画している。
¼ また、ニセコの気象条件と競技日程を検討した結果、ニセコのみでの開催が難しいことから、一部の技術系種目についてはサッポロテイネススキー場の1972年大会コース活用を検討している。

【 今後の進め方 】

¼ 環境保全やコスト縮減を目的に、スキー場の既存ゲレンデを最大限に活用したコースの検討に向けて、競技団体と協議を行っていく。

■ アイスホッケー

【 検討状況 】

¼ 1972年大会のレガシーである真駒内公園屋内競技場の活用を計画している。
¼ 月寒体育館の後継施設である新月寒体育館を札幌ドーム周辺に移転・建替し、大会時は新旧両施設の活用を計画している。

【 今後の進め方 】

¼ 高次機能交流拠点である札幌ドーム周辺においては、大会時から大会後に至るまでの将来的な在り方や、周辺を含めた更なる活用について検討を行っていく。

■ 国際放送センター（IBC）

【 検討状況 】

¼ 旧北海道立産業共進会場用地では、アクセスサッポロの後継施設である新たな展示場の整備計画が進められているため、大会時にはIBCとして使用する計画としている。

【 今後の進め方 】

¼ 新展示場の計画と連動して、IBCの計画検討を進めていく。

■ 選手村

【 検討状況 】

¼ 選手村候補の一つとして、更新時期を迎える月寒地区の市営住宅を集約・建替する計画と連動し、大会時は建替えを行う市営住宅の一部を選手村として活用する計画としている。

【 今後の進め方 】

¼ 月寒地区における市営住宅を活用した選手村の更なる検討に加え、既存ホテルの活用など、その他の選手村についても、既存施設の最大限活用を念頭に検討を行っていく。

<競技会場>

1	西岡バイアスロン競技場	■ バイアスロン ▲ パラバイアスロン パラクロスカントリースキー	10	ニセコ	■ スキー・アルペンスキー ▲ パラアルペンスキー
2	長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）	■ ボブスレー・ボブスレー ボブスレー・スケルトン リュージュ	11	サッポロテイネススキー場	■ スキー・アルペンスキー ▲ パラアルペンスキー ■ スキー・フリースタイルスキー ▲ スキー・スノーボード ▲ パラスノーボード
3	月寒体育館	■ カーリング ▲ 車いすカーリング	12	札幌国際スキー場	■ スキー・フリースタイルスキー スキー・スノーボード ▲ パラスノーボード
4	新月寒体育館	■ アイスホッケー1 ▲ パラアイスホッケー	13	さっぽろばんけいスキー場	
5	真駒内公園屋内競技場	■ アイスホッケー2			

<非競技会場>

A	札幌ドーム	■ 開会式/閉会式/メダルプラザ ▲ 開会式/閉会式/メダルプラザ
B	札幌コンベンションセンター	■ メインプレスセンター
C	新展示場	■ 国際放送センター ▲ 国際放送センター※1
D	市営住宅月寒団地ほか※2	■ 選手村 ▲ 選手村

※1 国際放送センターは、札幌ドーム周辺に設置する計画としている。
※2 選手村候補地として、月寒地区の市営住宅を集約・建替する計画と連動し、大会時は建替えを行う市営住宅の一部を選手村として活用する計画としている。